

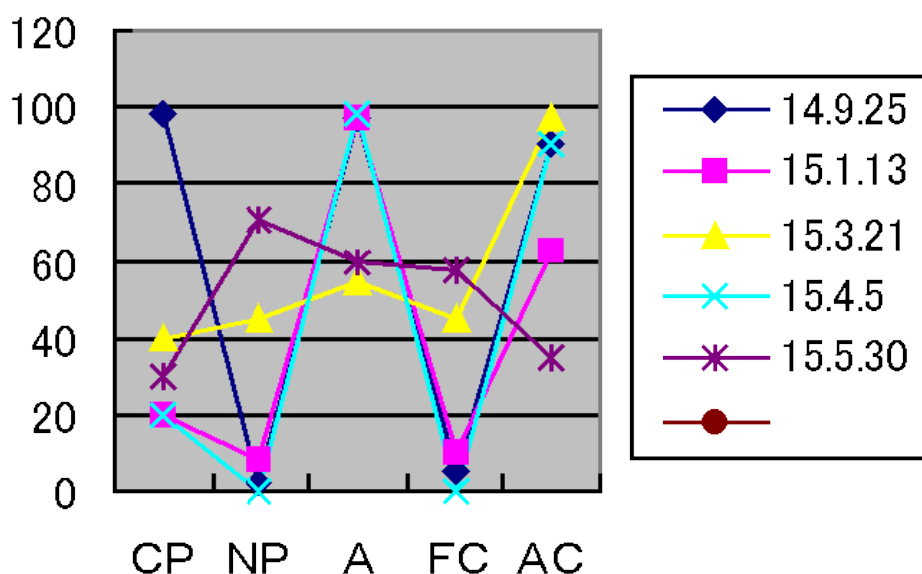
## 2003年豪州・ペンリス市 春ゆめの大自然交流合宿に参加して Kさんの場合

平成21年10月2日

平成14年9月25日、A中学のM養護教諭から相談を受けた中学2年の女生徒の話である。早速心理テストを採り、分析した。紺色のエゴグラムである。小学校6年生の時、いじめに遭ったと言う。グループを組んで問題行動を起こす同級生達が許せない気持ちはCPの高さから来る。NPとFCの低さから人間関係を自ら作っていかず、あるいは、作ろうとしないために友達が少ない。本を読み、1人で考えたりする方が安定しているのはAの高さだろう。1年半、殆どカウンセラー室か相談室で過ごしてきた。ご両親共に本人同様、CP、A、ACが高い。自他共に厳しく、ストレスが溜まりやすく、考えすぎて堂々巡りし活路が見えない。出席認定を取りながら、当フォーラムに通うことになった。

12月から参加者の募集が始まった第1回目の「2003年豪州・ペンリス市 春ゆめの大自然交流合宿」に誘った。同じく不登校で、当フォーラムで勉強している中2の女生徒、二人も誘ってくれるが、「う〜ん」と考え込む。ところが、少ない友達の中で特に仲がよい同級生が同合宿に参加してくれることになり、年が明けて1月13日の実施説明会に、母親に連れられて途中から来てくれた。藤色のエゴグラムを見て、同交流合宿参加の可能性を読みとった。即ち、CPとACが下がり、自他共の厳しさと人に会うことの抵抗さが弱まった。2月16日から始まった2回の参加者交流会と、5回の英会話研修には全て参加した。3月に入ると、グループの仲間達とも打ち解け、笑顔を見せ、大きな声で談笑するようになった。3月21日の2回目の参加者交流会の時に採った黄色のエゴグラムのNPとFCの成長に、その変化がうかがえる。

しかし、交流合宿からの帰路、飛行機の中で採った水色のエゴグラムは、CPだけは下がったが、他は相談を受けた当初に戻ってしまった。この交流合宿では不登校の解消を果たせなかったが、その後フォーラムでの勉強やカヌーなどの野外活動に参加していく内に、えんじ色のエゴグラム(同年5月30日)が示すように、遂にACとFCの逆転で授業参加の抵抗が弱まり、NPの成長に人間関係の築きの糸口が見えた。



結果、彼女は夏の信州・八ヶ岳の交流合宿と夏期講習参加で、すっかり同世代の仲間達の関わりと学習に自信をつけ、2学期から授業復帰を果たした。その後県立 S 高校に合格し入学、更に学習に励み、S 高校の推薦を得て、正月の箱根駅伝常連の K 大学に入学、現在大学3年生である。以下は、そんな彼女が授業復帰した中3の1月、県教委の取材に答えて書いてくれた文である、

私がクラスへ戻れたまきっかけの一つは、去年の春オーストラリアへ行ったことです。欠席していた時からお世話になっている先生が誘って下さった「春ゆめの大自然交流合宿」に友達と一緒に参加しました。

そこで長期欠席をしている自分を知る人は殆どいなく、事前のダグループ研修やや英会話研修から気軽に人と接することができました。そして、人と一緒に行動することへの抵抗感がだんだん無くなってきました。

オーストラリアでは現地の人の人選のおおらかさや、日本とは異なった土地柄の影響もあったのかもしれませんが、そこで、自分を表現することの大切さを知りました。慣れない英語を使い、現地の人選とコミュニケーションすることはとても大変だったけれど、とても楽しいものでした。たった5日間でしたが、世界の広さを知ることもでき、素晴らしい経験をさせてもらったと思っています。今年もオーストラリアに行く企画があるので、姉と一緒にまた参加する予定です。2度目なので、もっと積極的に人と関わっていきたくと思っています。将来は、こういった経験を生かし、どこにあっても必要とされる人間になりたいです。